

## ペリー来航と北海道開拓の歴史

黒船来航はペリーが4艘の蒸気船で浦賀に現われたが、外国船が日本に来た歴史はそれより61年も前にあった。

### 1 外国船の来航は

1739 外国人が日本に来た歴史は、ロシアのベーリングが遣わした北太平洋探検隊のティン・スバンベアが石巻沖の網地(あじ)島に来たのが最初で、島にはベーリングの銅像がある。

1792 ロシアのアダム・ラクスマンはエカチェリーナ号で根室へやってきた。彼は日本人漂流者を帰還させ、日本との通商を求めた。

\*この時の老中は白河藩主の松平定信、彼は老中として即座に結論を出すことはせずに、多くの役人から意見を聞いた。そして、三つの回答案を作る、それが以下の内容。

①通称は認めない ②蝦夷での通商を認める ③通称は長崎へ行ってほしい、そこで定信は③を回答した、①では戦争になるかもしれない②は江戸ではなく蝦夷にすることで幕府のメンツを傷つけない、③は通商はいいともだめとも言っておらず、あいまいにした苦肉の案。

1804 ロシアのレザノフが通商を求めて来航、通商を断る。レザノフは樺太・択捉を襲撃して帰国。

1853 ペリー来航、サスケハナ 2450t・ミシシッピー1690t の蒸気船二艘とサラトガ 882t・プリマウス 989t の二艘の帆船。

### 2 北海道の開拓の歴史

佐賀藩7賢人(大隈重信・江藤新平・鍋島直正・佐野常民など)のひとり島義勇(しまよしたけ)は札幌の都市開発にかかわり、北海道開拓の父と言われ顕彰された。彼は明治2年藩主直正が蝦夷開拓督務になると、蝦夷開拓御用係りに任命される。錢箱に仮役所を置き、札幌に本部を作り五州第一の都にするべく、碁盤の目のような整然とした街づくりに着手。が、費用もかさみ3カ月で解任。

1869 札幌の街づくりに着手

1874 明治7年屯田兵制度。ロシアの南下に対抗して、北海道の警備と開拓にあたった兵士とその部隊。1904(明治37年)に廃止された。

1876 サッポビールの前身が完成、日本最初のビールは村橋久成らが成功。クラーク博士札幌農学校の教頭に着任(アメリカでクラークの教えを受けた新島譲が推薦した)。